

忘れることに価値はあるか

学校の勉強は「覚える」が主流。試験は覚えたことの確認作業。覚える能力の良し悪しで成績の帰趨が決まる。もちろん大事な能力ではあるが、実社会では学生時ほど重要な能力ではないのでは。記憶力がよくて学校の成績がよかった人が必ずしも実社会のトップではないのだ。

「覚える」至上教育でいいのか

覚えることが苦手な人は学校の成績がよくない。小学校で漢字の書き取りができない。中学校で社会、理科ができない。もちろん英語もできない。

この人は努力（時間をかけて勉強）してもいい点が取れないので、自分は頭が悪いと思うようになる。これが潜在意識に染み込んで勉強意欲をなくす。必然的にいい高校、いい大学に入れない。社会人の大半はこうした人である。

大手企業に勤めるエリートや官僚、難しい国家資格に若くして合格する人たちは、覚えることが得意な人である。この人を日本ではエリートと呼んでいる（本当のエリートは記憶力が優れた人ではなく知識・教養・人格はもちろん、思考力に優れ本職に関係ないことにも広く精通している人である）。

受験問題も、覚えていればできる問題が多い。

東京大学の学生に聞くと「中

学高校は授業を聞いて、教科書を覚えればほぼ満点が取れる。難しいことではない。学校では「覚える能力」が一番の価値がある」という。

世の中ではこの能力はそれほど価値はないらしい。覚える能力が劣る人、つまり学校の成績があまりよくない人の中に多くの逸材がいる。

集団のリーダーシップをとる人、いい仕事をする人、画期的研究成果を上げる人、優れた芸術家・職人など少なくない。

最近では「地頭がいい」という表現をされる人も多い。思考力のある人。理解力や表現力を持ち、考える力のある人である。

「勉強嫌いです。学校の成績も酷いものでした」という社員がいる。いい仕事をする。優先順位や物事の取捨選択が上手い。問題の発見、改善ができる。任せて安心の社員である。

他人と違うのは「メモ魔」である。メモ帳、付箋、スマホを

記憶力がいいこと不幸

使い、情報整理だけでなく処理

や管理まで行う。

私は学校の成績はそんなに良くなかったが、覚えている能力は高かった。

いつどこで誰が何を、が自然と頭の中に浮かんだ。

「駅前の居酒屋で、部長と鈴木君と飲んでた時に部長はこう言いましたよ。あのとき蝶々柄のネクタイされてました」。

メンバーや状況まで覚えていたので、相手も納得せざるを得なかった。

その場では、してやったり感があるが、時間が経つと後味が悪い。いい気持ちではなかった。

家庭での小さな「ごっこ」で、妻に対してもこれをやる。必ず夫婦喧嘩になった。

覚えていることは優れていることだと思っていたが、実は不幸なことなのかもしれないと感じ始めた。

似たような話を聞いた。ある社長は若い時から記憶力がいいことに自信を持ってい

経営管理講座 443 染谷昌克

信じられなくなった。そして人を何人も失った。責めている中身は大きなことは少なかった。ただ、忘れてしまっていること、覚えていないことが許せなくて幹部を強く責めるようになっていた。

記憶力がいいということは長所なのだろうが、このように短所にもなる。それも致命的な欠陥になりうるのだ。

忘れる力も仕事能力のひとつ

覚える能力が劣るというのはいい換えれば「忘れる能力が優れている」ことである。忘れないことでよくないケースがある。以上「忘れる」を能力としてみるのもいいだろう。

忘れないことは不幸なことである。人生には楽しい思い出もあるが、辛いこと口惜しいことの方が多い。それらがしつかり記憶され、絶えず心を支配するのは本人のためにならない。

二十年前にいわれた一言を昨日のこのように覚えていてその人を絶対に許さない。失敗した人のその失敗が今も鮮明にあるため、その人が成長しても認めない。一度嫌った人は一生嫌みない。人間関係が上手いかわからない。

忘れないことは、一見優れた能力のように思えるが、過去の失敗や嫌な記憶までも抱え続ける。心の負担や行動制御が増え、前向きな行動や思考の妨げになることがあるのだ。

「忘れること」というと「だらしがない」「覚えていないなん

て恥ずかしい」といったマイナスの印象を持つが、忘れる力には重要な役割がある。

忘れることは、情報を整理し「今の自分に必要なこと」に意識を向けやすくすること。

私たちに求められる力は、「記憶力の良さ」だけではない。身の回りにある膨大な情報から、何を覚え何を忘れるかを考え、取捨選択する判断力である。

優れた人は、「すべてを覚えること」ではなく、「必要な情報だけを残し、過去にとらわれず判断を下すこと」ができる人。

忘れることは、怠慢でも逃避でもない。

私たちにあって、忘れる力を持つことは、冷静な判断、柔軟な思考、そして寛容な人材育成に不可欠なのだ。

忘れる能力を磨くには、メモを活用すればいい。メモに残したものを、定期的に必要な情報とそうでないものに仕分けする。繰り返ししていくうちに、不要な情報に縛られている自分の姿が見えてくる。